

㈱メイドー日本語教室 第2期 日本語パートナー説明会

【日時】2009年5月15日(金) 17:00~19:00

【場所】㈱メイドー 食堂

【授業担当(プログラムコーディネーター)】門間美智子 蜂須賀真希子

1. とよた日本語学習支援システムとは

概要 豊田市に在住、在勤の外国人の日本語学習を支援するという豊田市の事業です。現在、名古屋大学が豊田市から委託を受け、平成19年度の実態調査に始まり、平成20年度から実際の教室運営を始めているプロジェクトです。この㈱メイドー教室は昨年10月より第1期日本語教室を実施し、今回で2期目です。

目的 ①外国人に日本語を学ぶ機会を得てもらうこと。

②日本人に「外国人にとってわかりやすいコミュニケーション」の仕方を学んでもらうこと。

③日本語を使って交流をし、日本人、外国人にとって住みやすい地域、働きやすい職場にすること。

2. 参加者とその役割

システムが運営する日本語教室には3種類の参加者がいます。システムから派遣される「プログラム・コーディネーター」、日本語を学ぶ外国人である「学習者」、学びをサポートする「日本語パートナー」です。

プログラム・コーディネーター

教室の進行役であり、皆さんが教室の中で行うやりとりが学びにつながるようにサポートしていきます。また、プログラム・コーディネーターは日本語教育経験者です。文法面の質問に答える役目を荷っています。学習者・日本語パートナーとの関係や、よりよい地域・企業をどうしたらつくることができるか一緒に考えていきましょう。

学習者

日本語を使う過程で試行錯誤しながら理解し、その結果、日本語を使う技術を身につけます。また、教室活動を通して、知識や技術だけでなくどのように学習していくかの方法も身につけます。

日本語パートナー

正しい日本語を教える(または指導する)「教師」ではなく、日本語でコミュニケーションを行う「パートナー」として日本語学習者と接します。文法面の質問はプログラム・コーディネーターの役目ですので、専門知識は必要ありません。学習者が会おう生の日本人として、学習者と交流してください。

3. システムが提案する「学び」

システムが開設する日本語教室では「教科書」は使いません。また、文法を教えるということもしていません。それは教室で学ぶ文法やフレーズが実際に学習者の必要としている「ことば」ではないからだ、と私たちは考えています。実際の交流の中で、使われる「ことば」こそが学習者のみなさんの必要としている(=学ぶべき)ことばではないでしょうか。

言葉の習得のためには、「説明」より、コミュニケーションのために実際に使われたことばを「理解」することのほうが大切だと言われています。いくら文法的な説明を受けてそれを理解したとしても、コミュニケーションの場面で「音」として聞いて理解できないものは、習得に繋がりません。まず、大切なのは、場面や身振りや表情を利用して、ことばを理解させることだと考えてください。それが第一段階です。理解できたものは、そのうち「形」に意識が向きます。その段階に至って初めて「説明」も有効です。そのためには、まず、皆さんのことばを

理解させる努力をしてみてください。

相手の言いたいことがわかった、という達成感は交流を継続する力にもなりますし、記憶にも残りやすいと思います。

また、私たちはことばを身に付けていくためには、第一に「交流」が必要だと考えています。そして、「交流」を生み出すためには「安心感」や「期待感」が前提になると考えています。交流するためには、お互いが自分自身のことを表明する必要があります。できれば、まず皆さんのほうから自分の情報を示していただければと思います。日本語初心者に日本語で話しかけるのはとても難しい事です。そして、その学習者にとっての唯一の情報源のような日本人になるのは緊張する事だと思います。でも、そんな時は是非周りの「日本人との交流」も大切にしてください。そして、学習者との交流は、「私は・・・」で始める事で、本当にお互いが伝えたい事を伝え合う「交流」になるのではないのでしょうか。

4. コースの流れ

日程：2009年5月22日 クラス分けテスト

5月29日 目標／テーマ決め

6月5日 ～7月24日 クラス活動

7月31日 成果発表会

時間：毎週金曜日 17:00～19:00 (会話クラス／読み書きクラス同時開講)

場所：(株)メイドー 食堂

対象者：会話クラス 判定0・1レベル

読み書きクラス 判定2以上

5. 教室活動の内容

		会話クラス		読み書きクラス	
		学習者	日本語パートナー	学習者	日本語パートナー
授 業 前	事前課題	<p>毎回、教室の最後に次回のテーマを発表します。</p> <p>次回のテーマについて教室でみんなに日本語で話したい、伝えたいと思うことを考えてメモしてきて下さい。</p> <p>学習者の方は、母語でも構いません。(周りの人に日本語では何と言うか聞いたり、辞書を引いたりしてもいいです。)</p>		<p>事前課題</p> <p>前回のクラスで勉強した言葉を覚える／書けるようにする。</p> <p>今回使える言葉表現を調べる。</p>	
	1 0 分	<p>プログラム・コーディネータによるモデル提示。</p> <p>*プログラム・コーディネータが、その日のテーマに沿った簡単なモデルを提示します。自分の言いたいことを、どのように言えるかを考えながら見てください。</p>	<p>1 0 分</p> <p>前回の成果をパートナーに見せる。</p>	<p>学習者が前回の成果を書くのを見守り、学習者に改善点等をアドバイスする。(書き方など)</p>	

30分	メモの内容をパートナーと伝え合う。 ※この時間は自分の言いたいことを日本語で何と云うか考える時間です。日本語パートナーと交流しながら、どのように言うか聞いたりする。	メモの内容を学習者と伝え合う。 ※学習者に質問するだけでなく、自分のメモの内容も話して下さい。学習者が覚えるのは皆さんが教えた言葉だけではありません。皆さんの「ことば」一つ一つが教材です。ですから、聞き取りやすくわかりやすく話すようにして下さい。	30分	1回目に決めた作文のテーマにそって、パートナーと交流しながら書けることを増やす。 単語を増やしても、表現／文章を増やしてもよい。	1回目に決めた作文のテーマにそって、学習者と交流しながら学習者が書くためのサポートをする。 ※学習者のレベルをみて、できそうなら、意味を伝えるだけでなく、辞書の引き方や覚え方、書き順を教えたりして下さい。それが、一人で書いたり読んだりすることにつながります。
	30分	できるだけ何回も相手を変えて伝える。 ※前半で勉強した言い方でみんなに伝えます。この時間は、言い方を聞くのではなく、自分の話を聞いてもらう時間です。		できるだけ何回も相手を変えて伝える。 ※ここでは、言い方を教えるのではなく、なるべく聞くようにして下さい。	交流の中で出てきた言葉を、最終目標の作文にどう書くか考えながら清書する。 分からない時はパートナーに書き方を聞きながら書く。
30分	<p>会話クラス／読み書きクラス合同で、今日の勉強を発表する。 会話クラス…今日話した事について話す。 読み書きクラス…今日書けるようになった事を板書、声に出して読む。 パートナー…学習者とどのような活動をしたか、学習者にも分かりやすく話す。</p>				
20分	<p>次回の目標と事前課題を考える。 目標は、今回の達成度により、同じものを掘り下げても良いし、新しい目標に進んでも良い。</p>				
授業後	<p>振り返り 教室活動で気づいた事などを話し合う。</p>		<p>振り返り 教室活動で気づいた事などを話し合う。</p>		

6. 教室の概要

【期間】 2009年 5月22日～2009年 7月31日 毎週金曜日（全11回）

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回
5/22 クラスわけ テスト	5/29 目標決め	6/5	6/12	6/19	6/26	7/3	7/10	7/17	7/24	7/31 成果発表会

【連絡先】 名古屋大学留学生センター 衣川研究室

Tel/Fax : 052-789-4700 / メールアドレス : toyota-jimu@ecis.nagoya-u.ac.jp

【参考】 とよた日本語学習支援システム ホームページ <http://www.toyota-j.com/>

※このホームページには e - learning もあります。ぜひ、一度ご覧下さい。